

——ともに学び、教えあい、家族ぐるみで交流した二人の関係を紹介します

幕末を生きた町医者と歌人



笠原白翁(良策) かさはらはくおう(りょうさく)
文化6年～明治13年(1809～80)
幕末福井の医師。天然痘と闘い、種痘(予防接種)を普及させた。曙覧の学友であり、後援者。2025年、白翁の生涯を描く小説『雪の花』(吉村昭著)が映画化。
写真提供: 福井市立郷土歴史博物館



橘 曙覧 たちばなのあけみ
文化9年～慶応4年(1812～68)
幕末福井の歌人、国学者。白翁の種痘普及を応援。二人は国学者田中大秀に入門し、ともに学んだ。
写真: 越智通兄筆橘曙覧肖像画(当館蔵)



企画展

かさはらはくおう たちばなのあけみ

笠原白翁と橘曙覧

2024年11月21日(木)～2025年3月9日(日)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日休館)、年末年始(12/28～1/4)

開館時間 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)

観覧料 100円

中学生以下、70歳以上、障がい者とその付添人の方は無料

家庭の日(毎月第3日曜日)、ふるさとの日(2/7)は無料です

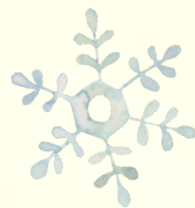
福井市橘曙覧記念文学館

主催: 福井市、(公財)歴史のみえるまちづくり協会

Fukui City Akemi Tachibana Literature Memorial Museum



笠原白翁と橘曙覧



笠原白翁（良策）は、足羽郡深見村（現福井市深見町）に生まれました。漢方医学を修めたのち、蘭方医学も学び、当時恐れられていた流行病・痘瘡（天然痘）の予防に尽力した医者です。

橘曙覧とは、若いころより交流があり、ともに国学や和歌を学んだ間柄でした。白翁は、曙覧に歌の添削を依頼するだけでなく後援者として生活を支え、曙覧の家族が病気の時は、いつも診察して投薬を引き受けたことが伝えられています。曙覧も医療事業に協力し、白翁の執筆した『牛痘問答』の添削を行うなど、その活動を応援しました。また、白翁の長男も曙覧に国学を学び、家族ぐるみのつきあいがあったことが知られています。

コロナ禍を経た今、笠原白翁の活動はより一層注目されています。2025年1月24日には、白翁が主人公の映画「雪の花—ともに在りて—」（原作：吉村昭著『雪の花』新潮社）が公開されます。この機会に、幕末の福井で活躍した二人への理解を深めていただければ幸いです。

新収蔵品展 2024 （同時開催）

2023年度に曙覧の門人であった野村恒見（淵蔵）のご子孫から資料のご寄贈がありました。橘曙覧資料を中心に資料の一部を初公開します。

展示解説&曙覧さんトーク

12月7日(土)

1月19日(日)

2月15日(土)

午後2時～(30分程度)

※要観覧券

担当学芸員が展示内容の解説を行います。曙覧さんに関する疑問や質問にもお答えしますので、お気軽にご参加ください。

【交通のご案内】

〔JR西日本〕 福井駅より車(タクシー)で5分

〔コミュニティバスすまいる〕 福井駅西口のりば 照手・足羽方面ゆき
「愛宕坂」下車 徒歩1分

〔京福バス〕 福井駅西口のりば 運動公園線(道守高校先回り)
または清水グリーンライン「久保町」下車 徒歩2分

〔自動車〕 北陸自動車道福井I.Cより 約15分



福井市橘曙覧記念文学館